

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和元年9月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

17日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、各火口に噴気は認められませんでした。また、赤外熱映像装置による観測でも地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口のごく弱い噴気が観測されました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

次の火山活動解説資料（令和元年10月分）は令和元年11月11日に発表する予定です。

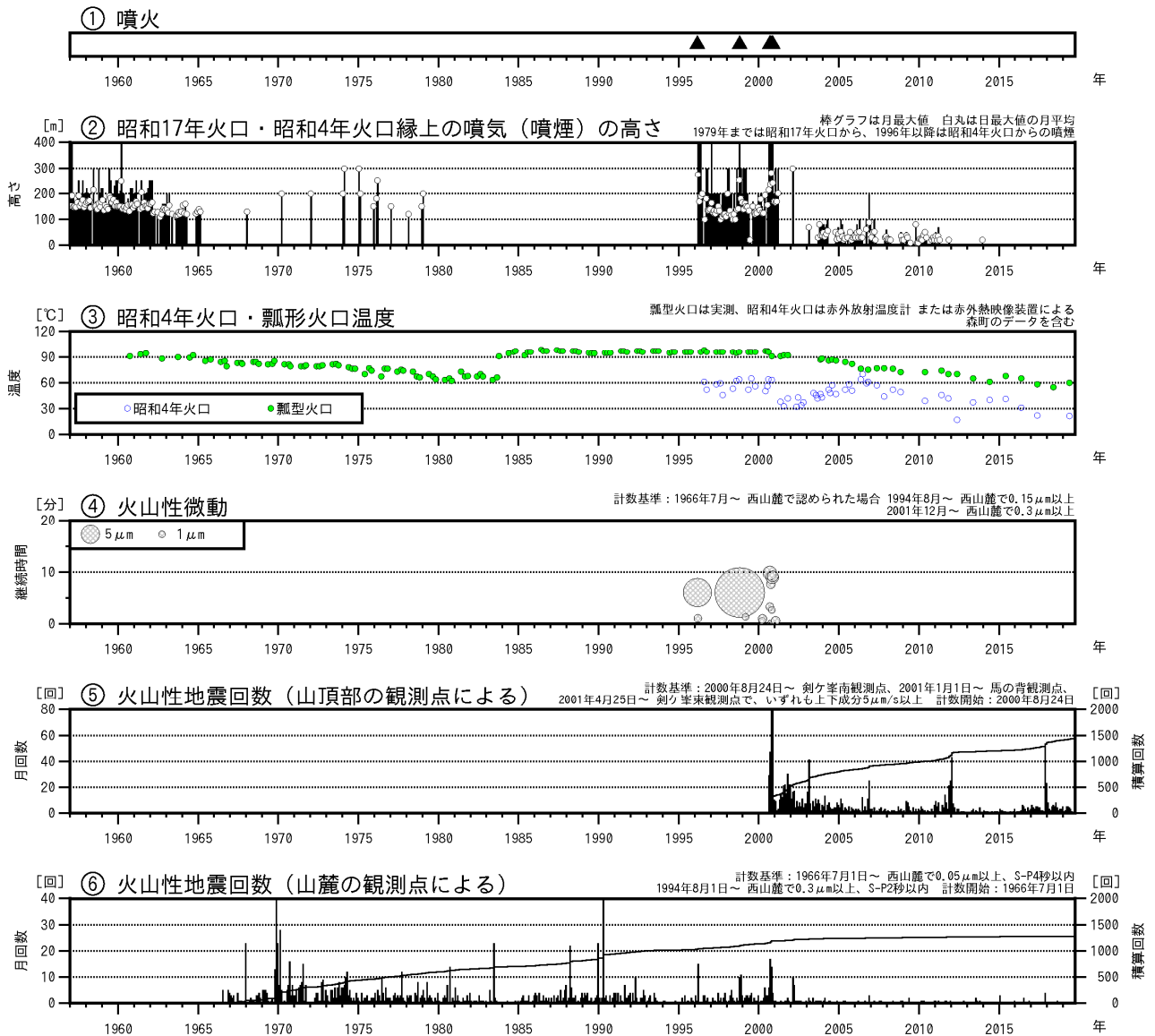


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2019年9月）

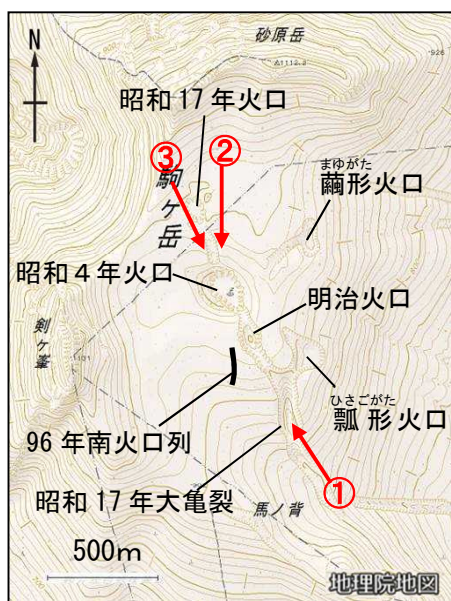


図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図



図3 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況
南東側上空（図2の①）から撮影

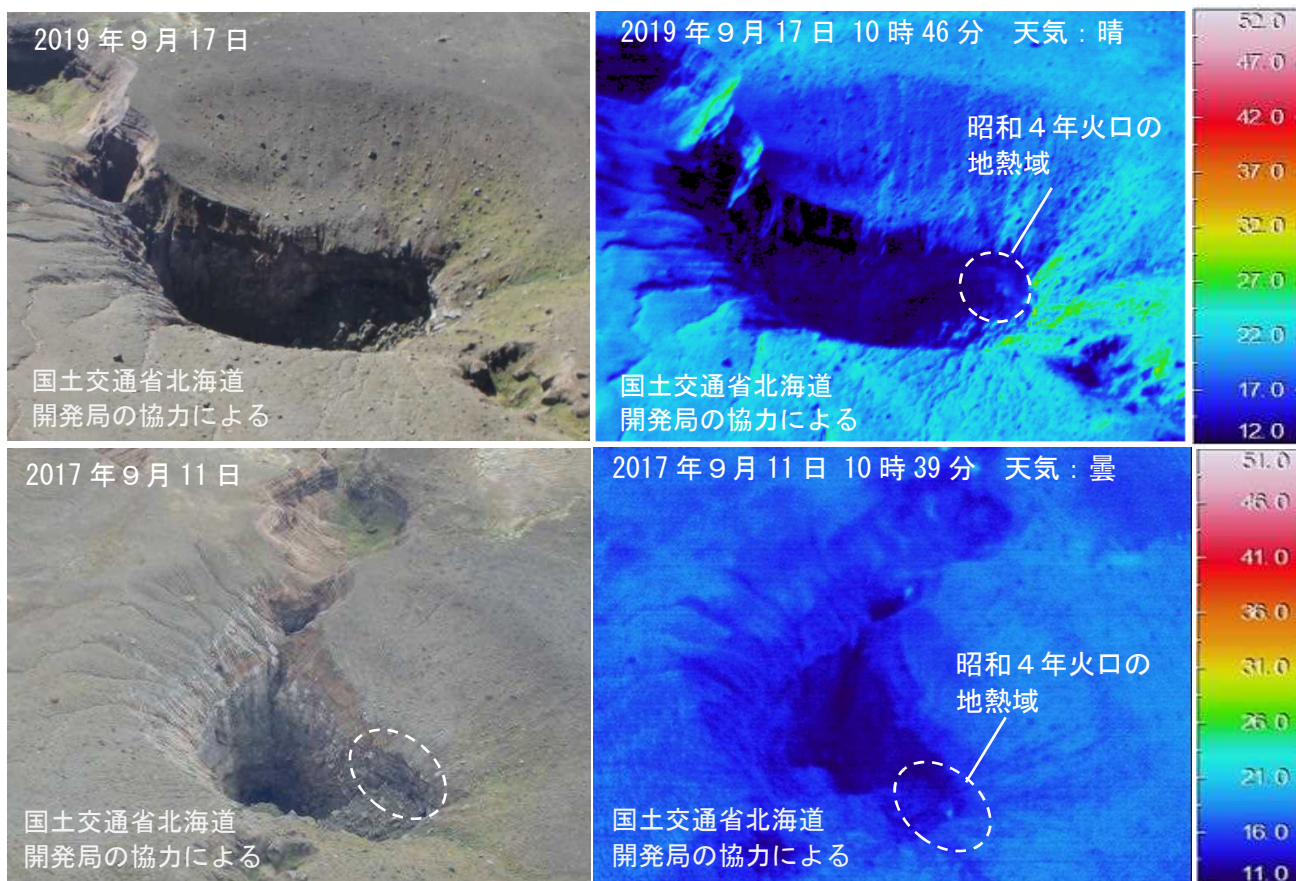


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口の地表面温度分布

上段：北側上空（図2の②）から撮影 下段：北西側上空（図2の③）から撮影
・昭和4年火口では、引き続きごく弱い地熱域が認められました

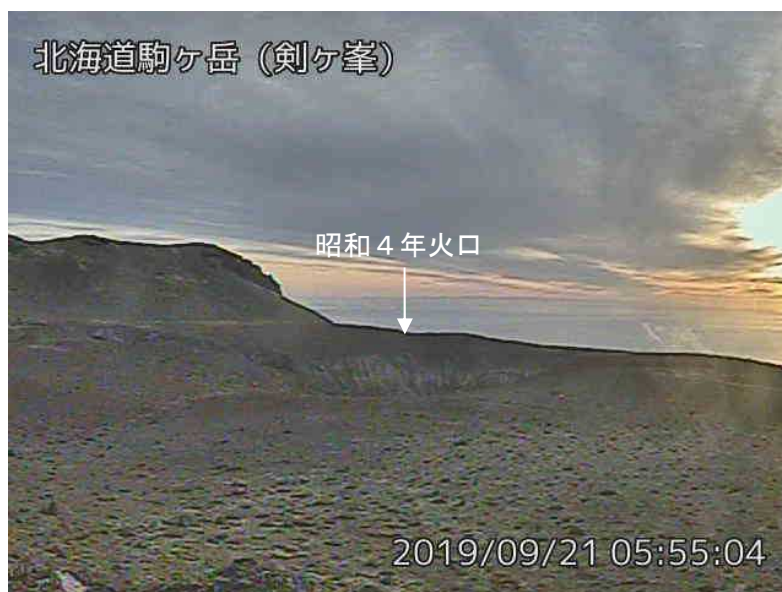


図5 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た火口周辺の状況
（9月21日、剣ヶ峯監視カメラによる）

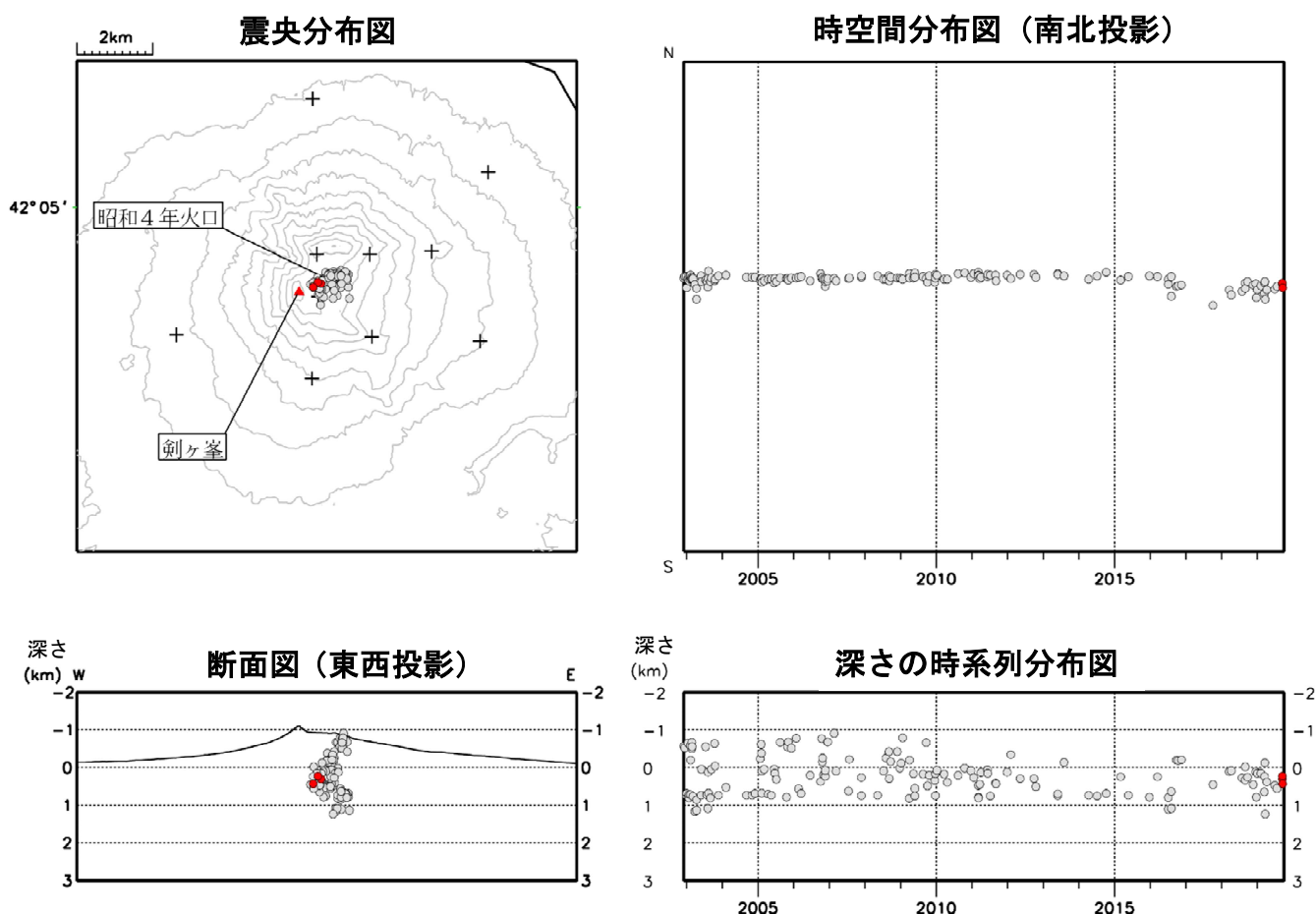


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2019年9月）

●印：2002年12月～2019年8月の震源 ●印：2019年9月の震源

+印：地震観測点

・地震は山頂の浅いところで発生しました。

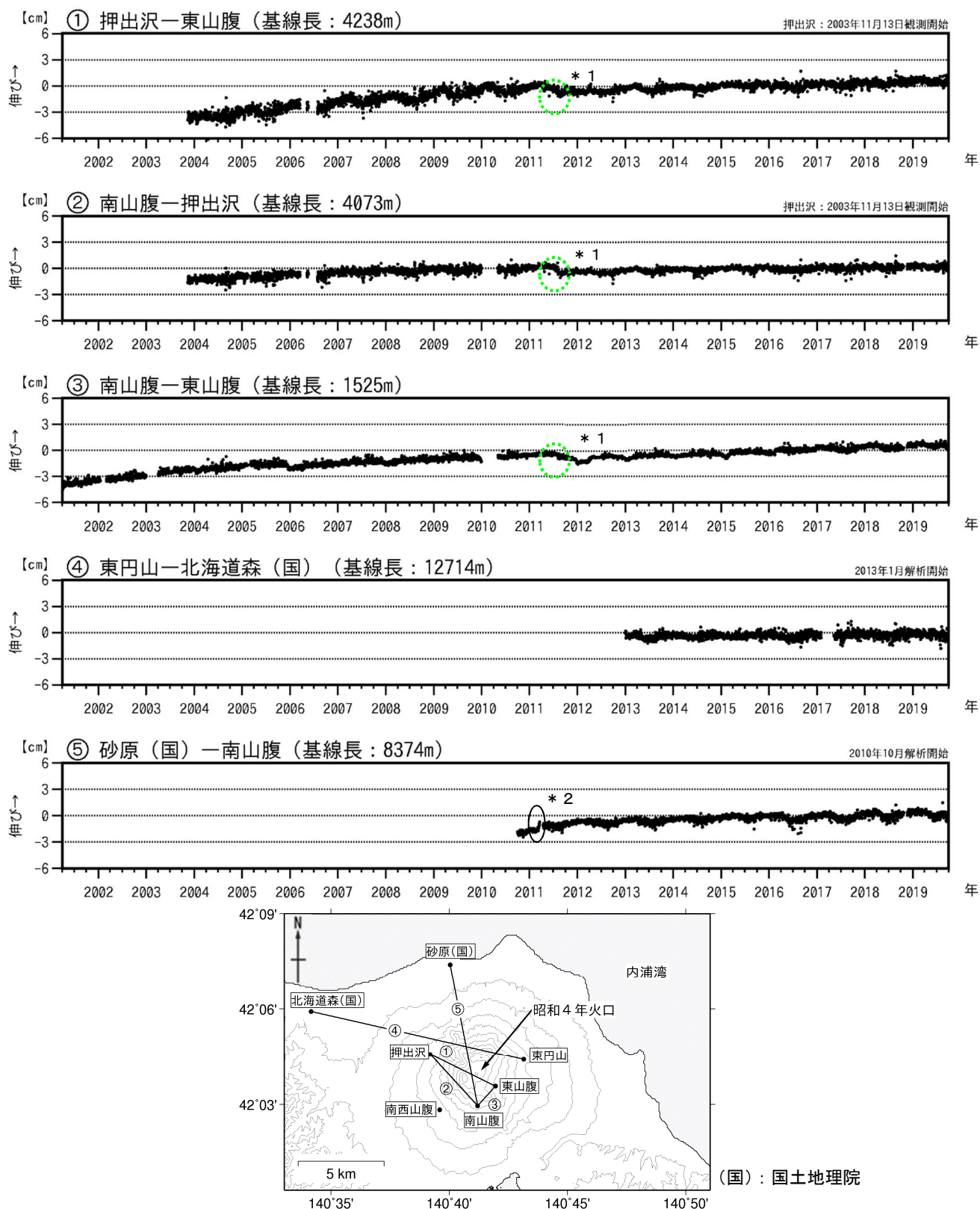


図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2019年9月）及び観測点配置図
 GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています。
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。
 ①～③の緑点線内の変動（* 1）は、機器更新によるものです。
 ⑤の黒点線内の変動（* 2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。
 2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

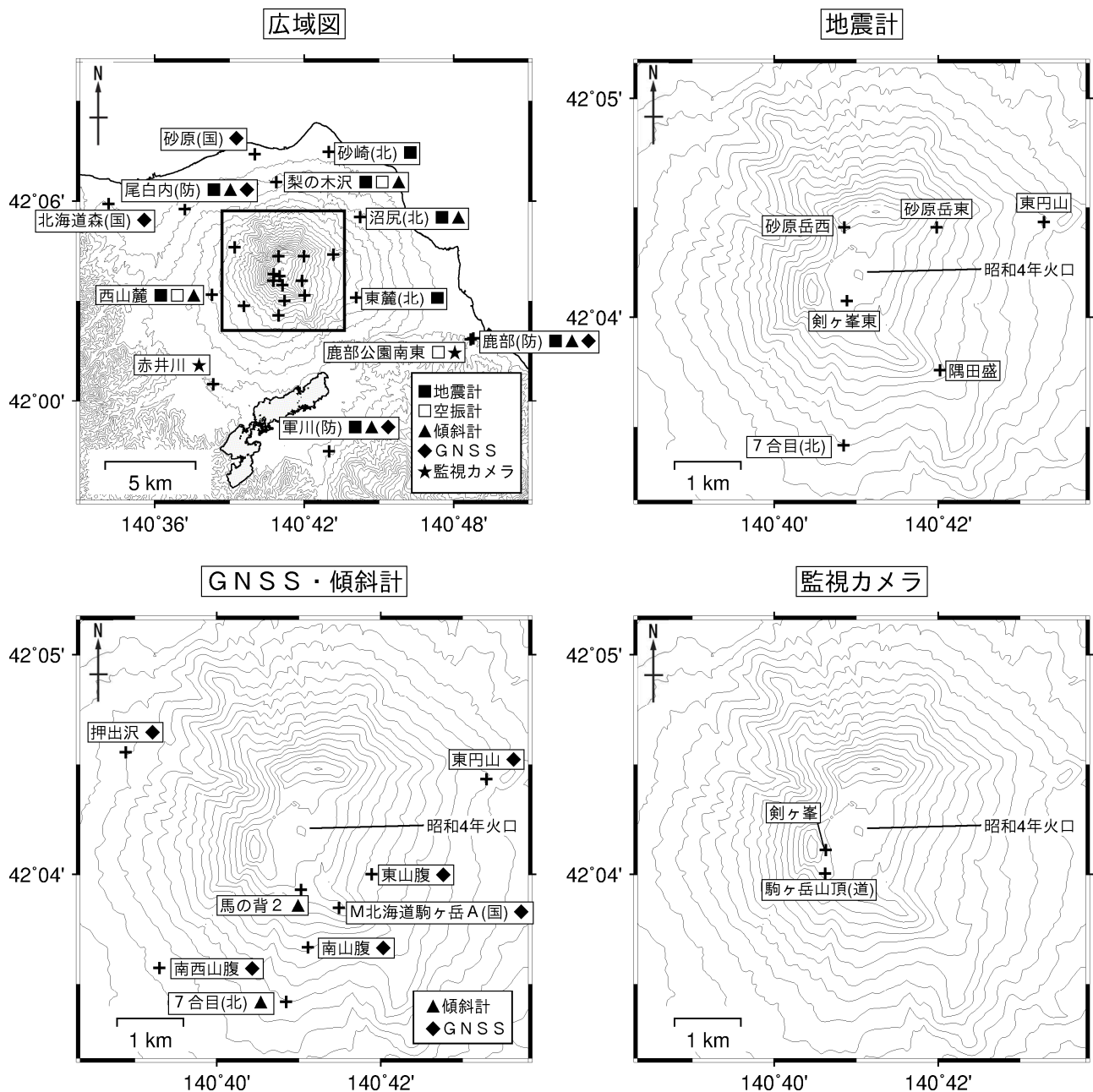


図8 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道)：北海道